

令和4年度 練馬区立学校の適正規模・適正配置検討委員会（第2回）	
開催日時	令和5年3月13日（月）10時00分～12時00分
開催場所	練馬区役所本庁舎12階 教育委員会室
出席委員	11名
欠席委員	3名
次 第	1 開 会 2 案 件 （1）練馬区の現状と適正配置の必要性 （2）適正配置の考え方（案） （3）その他
■ 要点記録	
（1）練馬区の現状と適正配置の必要性	
事務局	（資料説明）
三浦委員長	○ 都の推計では、今後10年間で児童数は18.1%減少することになる。子どもの数が減っていく一方で、学校施設は老朽化しており、これまで通り改築していくのではなく、適正配置も併せて検討していかななくてはならない。また、少人数教育や35人学級編制など、学級数増の要因も含めて検討する必要がある。
（2）適正配置の考え方（案）	
事務局	（資料説明）
三浦委員長	○ 今回はあくまで都の推計を基に算出しているため、今後、区としての要素を加味した推計に基づいて検討していく必要がある。 ○ 学校をつくった当時からルールが変わっており、改築すると必然的に建物は低く、敷地は狭くなる。制約がある中で、どういった形で適正配置や改築を進めていくのかを検討していかななくてはいけない。 ○ 令和6年3月に区の公共施設等総合管理計画〔実施計画〕の見直しが予定されているため、公共施設の一部である学校についても改築の考え方を示す必要がある。当然、適正配置の方針も併せて検討する必要があるということで、ゴールを来年3月に設定している。
委員	○ 中間提言の時から携わっているが、視点2が今回新しく出された考え方だと思う。今回のエリアは郵便番号の区分けということだが、もう少しその他の要素の根拠があるべきではないか。エリアを設定すると様々な解釈があり誤解が生まれる可能性があるため、丁寧な根拠の書き込みがあるとよい。 ○ 一番大きな考え方なので、視点2がすごく重要なのではないかという印象を受けた。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 来年度、区の政策の柱であるみどりの風吹くまちビジョンを新しくする予定だが、人口推計の中で地域によって増減の差が見られる可能性がある。 ○ 区全体で一律に増える減るではなく、もう少し細かく見ていかないと学校の配置バランスが崩れてしまう。また、大江戸線の延伸や西武新宿線の高架化など人が集まってくる要素も含めて推計をしたいため、エリアに分けた考え方をを行った。
三浦委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4つのエリアの中で何校減らすといった機械的なことをやるわけではなく、あくまで目安として提示して、その中で通学距離などその他の要素を見ながらしっかり検討していく。エリアにこだわるわけではない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後このA B C Dのエリア分けの地域が変わる可能性もあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 可能性としてはある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回この4つに分けているのは、このブロックで分けた推計が出てくる可能性があるからである。 ○ 例えば、小中連携をする際に大泉地域と光が丘地域をまたがる連携があってもよいわけであり、エリアの分け方は整理しているところである。方針の中では、エリア分けの理由を補足することになるかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3月の成案を目指しているということだが、何をもって成案となるのか。結果として何を出すのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後こういう考え方で適正配置を進めていくという内容を、12月にパブリックコメントとして区民に示し、その後に区議会の承認を経て3月に成案となる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視点1～3をすべて示し、どの学校を適正配置の対象とするかはまだ出さずに提示するのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回お示しした視点1～3をそのまま採用するかは別として、考え方についてはすべて提示する予定である。具体的な校名を出すか出さないかという議論はあるが、こういう条件の学校が対象になる、という考え方を出すことになる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者の目で視点1～3を見ていて、様々な数値等の検討をしても、視点3が通らなかったら振出しに戻るのではないかと思う。 ○ 視点3を重視したいということは提示してはいけないのか。

三浦委員長	○ 先ほどは説明の順番としてこの順で話したが、ご指摘のとおりハード面の視点3が一番大きい。
事務局	○ 方針の中で視点3を重視するという提示はできる。
委員	○ 実際の検討に使う推計の数字はいつごろ出る予定なのか。
事務局	○ 来年度6月の第1回の検討委員会でお示しできると考えている。区の推計を3つ視点の考え方に当てはめると、具体的な候補校が絞られてくると思う。
委員	○ 視点1～3を踏まえたうえで方向性を出すのが成案という理解でよいのか。
事務局	○ 視点1と2では検討の対象となるが視点3で対象から外れるという学校もあれば、逆もあるかと思う。次回は、3つの視点での評価をマトリクス化した形でお示しできるとわかりやすいのではないかと考えている。
委員	<p>○ 視点1～3についてはよく理解できた。やはりこういった視点を持って検討しないと対象校をあぶりだしていけないのかなと思う。</p> <p>○ 一方で、学校によっては、子どもが増えて満員状態になり、校舎をどうするか、来年再来年がピンチだということもある。長期的な視点で見ていかないといけないということを丁寧に説明したうえで、具体的な処置を考えていかないといけないと思う。</p>
三浦委員長	○ 推計を基に検討を行っているが、推計が上振れすることもある。今後、大江戸線の延伸の話が進んだり大規模な宅地開発があったりすると、大きく変わってくることもある。随時、反映しながら検討を行っていきたい。
委員	<p>○ イメージとしては区の人口は増えており、児童も増えるのかなという考えでいた。視点1～3は理解し、よいと思う。平成に入ってから学校数がほぼ変わっていない中で、今回の資料では思い切った数を提示している。難しいとは思いますが、もっと大江戸線の延伸など考慮していかないといけないと思う。</p> <p>○ 学校の統廃合で児童の通学距離が変わるということも考えられるが、見守り委員を増員するなどの対応をしないと、交通事故などの危険も高まると思う。</p> <p>○ 単純に数で見るというよりは、視点2の中で、境界にある学校はどうか、越境の考え方をどうするかといった点にも議論が発展していくのかなと思う。適正配置の検討においては、越境のルールも大事だと感じる。</p> <p>○ 一番大事なのは、教職員が教育の水準を保ち、新しいチャレンジができる教員数で学校を運営できるかだと思う。学校そのものの考え方など、ここ数年変わらなかった考え方の改革になると思うので、詰めて検討していったほしい。</p>

委員	<p>○ 適正配置の検討において、小中一貫の考え方は切り離しているのか。例えば過小規模校の救済策として、近隣の小学校と中学校で一貫校を構築することで、地域も守られ、学校規模や通学距離も確保できるのではないかと。実際に大泉桜学園は過小規模の小学校と中学校が1つになった。今後、そういった手法も含めて学校規模を検討する必要があるのではないかと思う。</p> <p>○ 地域の思いとして、卒業した学校がなくなるというのはやるせないものがある。単純に数字だけで割り切れないこともあるので、小中一貫も1つの方法ではないかと思う。</p>
事務局	<p>○ これから検討していく学校の中には、場合によっては小中一貫教育校という対応をするものも出てくると思う。</p>
委員	<p>○ **中学校は、息子が入学するときにプレハブになるのではという噂があった。道路をまたいで校舎と校庭が配置されるという計画で、子どもを通わせるには排気ガスの問題など不安があった。母校を残したいという気持ちはあるが、そこまでして残すのであれば統廃合の可能性も探してほしいと思う。</p> <p>○ 対応のスピードアップを図らないといけな学校もある。適正配置の検討は6年前から動いていないが、早く計画してほしい。先生方が困っていることなどをなるべく多く吸収し、方針に載せられるものは載せてほしい。</p>
委員	<p>○ **中学校については、現中学校の敷地で再建する形で動いている。実際には、道路を通す関係もあるのでまだ具体的には進んでいない。周辺の学校についても、子どもの数が多いため、**中学校の生徒を受け入れることはできない状況である。今後の進め方については、進捗があり次第、地元や学校にも説明させていただく。</p>